

# ならやま支部便り

第二百四十号 10月号 令和元年10月1日(火)

かなづき

十月(神無月) October

十四日(月) 体育の日 ○満月

二十二日(火) 宮中 即位礼正殿の儀

二十六日(土) ●新月

吉田松陰

見はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも

留め置かまし大和魂

三条西季知 すえとも

君よ君よくみそなはせ富士の嶺は

国の鎮めの山といふなり

## 今月の絵「栗」 峯田菖登



## 10月のスケジュール

三日(木) ●まほズクツキング 十三時 道場

●in大阪 大会役員責任者会議 本部

十二時半

四日(金) ●ならやま役員会 十三時 道場

●草友会研修十八時四十五分 西部◎

●ならやま当番 集合 十七時四十分

五日(土) 本部指導局 十時半 本部会館

六日(日) ●第74回愛連吟士権者第二部

(指導者の部 決定詩吟大会 アルカイ

ックホール他

●東明未来塾東海コース

七日(月) ◎事務局会議 十八時四十五分 富雄

十日(木) 漢詩講座 十四時 西部◎5F

十二日(土) ●昇段試験 十二時 大里会館

●ポリドル吟詠会ケネプロ

大東市総合文化センターサーティーホール

十三日(日) ポリドル吟詠会 第5回吟詠

リサイクル サーティーホール 十二時

十四日(祝月) ポリドル吟詠大会全国決選大会

十八日(金) ●公開講座 十四時～十六時 西部◎

●草友会研修 十八時四十五分 西部◎

●昇段二次試験 西部◎

十九日(土) 全国吟詠大会 in 大阪

サーティーホール

二十日(日) ●関吟新人・中間層全国吟詠大会

●磯部流吟道清明会創流六十周年

伊丹シテイホテル

二十二日(祝火) 合同ステージ 十四時半

学園前ホール

二十六日(土) 一心寺法要 九時半

二十七日(日) ならやまりハーサル 十一時

みささぎ会館

## 今月の標語

「苦しい時こそ勇気を出そう」

自分だけが不遇なのではない」

長い人生の中で「どうしてこんなに苦しいことが続くのだろう」と思う時があると思います。

「自分だけがこんな目に遭うのはよほど運が悪いのだろう」と錯覚してしまう人もいるかも知れません。

しかし、「苦しい事など生涯に何一つ無い」という人はあり得ません。

皆それぞれに何らかの苦しい事を抱え、克服の為に努力しています。

苦しいという事は自分のことであるからこそ実感するものであり、他人の苦しみは想像は出来ても実感することが出来ないで気付かないだけのことです。

人間は、苦痛や困難に出会った時、真剣になって立ち向かい、自分の持てる力を精一杯働かせなければなりません。

そこで思いもよらぬ力が出たり今まで気付かなかった方法や考え方が浮かび、それらが積み重なり実力となって身に付いていくのです。

誰しも不遇な時はあり、この試練に耐え抜いてこそ人間的な成長があると信じ、立ち向かって行くことではありませんか。

## 今月のお誕生日コーナー



松阪修さん(GYU教室)

池田葛梨さん(KOKO)

松岡通草さん(寿美伶教室)

- 小林茂樹さん(KOKO木曜)
- 西井浩喜さん(KOKO金曜)
- 吉桑愛織さん(光台教室)
- 北奥なつきさん(KOKO桜)
- 奈良綺喜さん(GYU教室)
- 阪木閑喜さん(KOKO水曜)

おめでとーごいします。

事務局より

☆哲喜会納涼うた祭り 池田黎・北岡・大山(司会)・長野・峯田・吉田・宇陀・古川・寺内・松岡(欠)・山中房・上田・木村・山本・大條・當嶋

☆事務局会議 池田黎・長野  
 ☆まほズクッキング 池田玉・黎・北岡・長野・木村・山本・他八人



- ☆役員会 池田黎・北岡・長野・古川・山本
- ☆指導局 池田黎
- ☆東明祭・研修会 池田・大山・長野
- ☆天啓打ち合わせ 池田黎・北岡・古川・山本
- ☆少壮チャリティーリサイタル実行委員会 池田
- ☆漢詩講座 山本・内山
- ☆公益事業推進会議 池田黎
- ☆理事会 池田黎
- ☆愛連一部 司会：池田黎
- ☆入賞 松浦千幸(KOKO通)

☆三会派交歓吟詠大会 池田黎・北岡・大山・長野・宇陀・山本

☆全国吟詠コンクール決選大会

青年の部：第四位 池田澄香(かぐや)

☆定年問題特別委員会 池田黎

☆西部公民館予約 池田黎

☆公益推進事業 お世話：池田黎・長野

参加：北岡・山本・内山

☆草友会研修 池田黎・北岡・長野・山本

☆本部よりCDが発売されました。

池田責任講師も吹き込まれました。

会員価格二一〇〇円。十枚以上で一七〇〇円

ならやまで五枚購入させて頂きます。

哲喜会事務局でまとめて購入になります。



☆来年度財団課題詩です。

財団の全国大会のプログラムに掲載されています。

令和二年度全国吟詠コンクール指定吟題

幼年・少年の部	青年・一般の部
①九月十日 (菅原 道憲) ②富士山 (石川 大山) ③山形県に学ぶ (重藤 保川) ④山形県を望む (広瀬 淡悠) ⑤山形県を望む (廣川 景山) ⑥山形県を望む (白居 悠) ⑦山形県を望む (松岡 成)	①寒夜の即事 (寂室 元光) ②赤間が関舟中の作 (伊形 雲雨) ③立山を望む (国分 青庄) ④易水送別 (駱 寶 玉) ⑤風橋夜雨 (張 繼) ⑥山行 (杜 牧) ⑦漢宮秋 (統御 龍) ⑧八幡公 (大田 錦城) ⑨九月九日山東の兄弟を望む (王 維) ⑩重慶山の瀑布を望む (山 陰)

☆R二年度く愛連一部課題詩

愛連の方はあるルートから戴きました。

大丈夫？きつと大丈夫。。。

令和三年度 一部

目次	送元二使安西
題名 梁川星殿 1	王 維 14
芳野 藤 古 梁川星殿 2	度 桑 乾 買 鳥 15
河内 路 上 菊池 隆 琴 3	
春日 山 懐 古 大橋 登 浜 4	
幸 龍 雨 窓 福 鴨 里 5	
望 立 山 國 分 青 庄 6	
月夜三叉口送舟 高野 龍 亭 7	
舟殿大垣赴名 西郷 南 洲 8	
偶 後夜開佛法僧島 空 海 10	
早登白帝城 李 白 11	
賀 交 行 社 南 12	
涼 州 詞 王 翰 13	

☆R三年度く愛連一部課題詩

令和三年度 二部

目次	中 作
① 六 兒 謡 末松 青 輝 1	⑦ 狐 中 作 額 鴨 庄 13
② 彌 公 詠 史 藤 田 東 湖 3	⑧ 花 月 吟 藤 野 君 山 15
③ 小 出 門 菅 原 道 真 5	⑨ 登 高 杜 甫 17
④ 筑 前 城 下 作 広 瀬 淡 悠 7	⑩ 山 歸 省 狄 仁 傑 19
⑤ 詠 富 士 山 柴 野 梁 山 9	⑪ 書 懷 (後 編) 西 郷 南 洲 11

- ☆少壮チャリティーリサイタル実行委員会 黎
- ☆ならやまプロ初校受理 山本
- ☆恩師松尾鷲恵を偲ぶ会 池田黎
- ☆東明未来塾本部コース 池田黎 受講：山本
- ☆プログラム初校 池田黎・北岡・古川・山本

各教室より

「哲喜会納涼うた祭り」

池田藹 何年かぶりに参加させて頂いて戴いた哲喜会納涼う

た祭り。

今迄、少壮の夏季特別研修会と重なり失礼していたわけなのですが、会長が不在では・・と私のスケジュールに合わせての開催となりました。とっても楽しい一日をすごさせていただきました。

各支部対抗の出し物には、目を見張るものがありました。

我が支部も、二〇周年記念大会のリハーサルを兼ねてやりましたが、正道すぎて、受けはも一つ？これは来年手を打たない！（爆笑）

抽選に当たった人：當嶋・宇陀・池田黎・山中房・上田・大山・寺内・テールブル賞（もも）

企画部の素晴らしい行事となりました。お弁当も良かったし、来年を今から楽しみみです。



「哲昌会納涼つた祭り」

KOKO水曜 山本貫昌

哲昌会納涼つた祭りで大山先生らが歌った萬葉集の歌は、巻八夏の相聞一五〇〇番で恋の歌です。大伴坂上郎女で作で鮮やかな技巧を凝らした名歌の誉れ高いものです。よく選び出されて歌われたと思います。



「夏の野の繁みに咲ける姫百合の知らぬ恋は苦しきものそ」夏の野から姫百合までが序詞です。訳は夏草の繁る野の底に咲いている姫百合のように人知れず思う恋は辛いものです。今年の納涼は素晴らしかったですね。

「師範昇格課題詩講習会」を受講して

KOKO水曜 山本貫昌

九月一日(日)尼崎エリックで開催された令和二年度 師範昇格用 課題詩講習会をまた早いのですが、先生に勧められて受講しました。

大変素晴らしい研修会で、受講させて頂いて有難く感じました。

勝山克昌さんが相当以前の支部便りに“うちの師匠は本当にすごい”と畏敬の念を込めて書いておられました。

私も研修会で先生の吟法指導の講習を受けるとつ

くづく勝山さんと同じ気持ちになります。

どうすれば教本内容を弟子たちの腑に落とし込む事が出来るのだろうか、考えて考えて考え抜いて独自の方法を編み出していかれたのだろうと思います。

地藏会長先生の挨拶にはいつも敬服します。

一般的な導入部から入って、総本部の実状について述べられ、高齢者達が楽しく老後を過ごすことが出来る様な施策を打ち出し、会員増強によって現状改革をしたいと言っておられました。

一方では、学生時代は詩吟に親しんでいても、卒業とともに諸般の事情で離れざるを得ないという状況にも危機感を抱いておられました。

又、各会派とも高齢化が進んでいるので、次の指導者の育成にも留意して欲しいという意味のことも仰っていました。

私も危機感を持つている者のうちの一人です。会員減少という事に歯止めを掛けなければいけないのですか、その現象は本質が外面的に現れて来たことに他ならないのです。

その本質とは、文化・教養の断絶という事です。

幕末以降、我が国には二回の大きな教養の断絶がありました。

① 明治維新以前と以後、

② 昭和20年の敗戦を境とした修復不能な断絶です。

教育面で端的に現れています。

古典教養を軽視した実学中心の教育です。

明治維新は「和魂漢才」から「和魂洋才」にシフトし、日本の近代化に成功します。

昭和20年以降の「洋」はそれまでは、イギリス・フランス・ドイツなどのヨーロッパ列強の重厚で格調高く、典麗優雅な文化です、軽佻浮薄なアメ

リカ文化に一边倒となる事です。それまでは“和魂”が日本精神の通奏低音の様に流れていたのが、アメリカによってほぼ完全に破壊されてしまいました。

かつてアメリカインディアン(ネイティブアメリカン)の背骨をへし折って、白人に絶対対抗できない様にして、アメリカへの隷従しか、生きる道がないと洗脳した如くに、日本にもその様にしたのです。

これをWar Guilt Information Program (ウオーギルトインフォメーションプログラム)といいます。

**「戦争についての罪悪感を日本人の心に植え付ける為の宣伝計画」**

脱線してしまいました。

しかし、古典芸能が好きなのもおり、琴・三味線・謡曲・仕舞・日舞などはコアな人達のみで支えられているので、詩吟も早晚そうなるのでしょう。哲草会では、無料体験講座を毎月開催して、コアとなるべき人の掘り起こしをしているので、素晴らしい試みだと思えます。

研修とは関係のない話を長々としてしまいました。

**「東明祭・研修会」**

池田菫黎



九月八日(日) 大東市立市民会館 キラリエホールにて、昨年度の昇格・吟功章・会員増強、他の表彰がありました。地蔵会長の会の表彰が沢山あって、頑張られたんやなああとつくづく感じました。哲草会も頑張つて来年あの舞台に上がりたいと思えました。

その後、新教本の講習があつて、(B&S・35) そのうちの一題「九日齊山に登高す 杜牧」を古賀千翔先生と連吟させて頂きました。

**「愛蓮一部」**

KOKO通信 松浦瑠音

今回は、第一組でしたので、朝早くから長野先生にもご足労頂き、着物を綺麗に着付けて頂きました。

舞台袖で池田先生に良い気を頂いて、本番に臨みました。

お昼には池田先生が朝から炊いて下さったかやくご飯のおにぎりを頂きました。

おいしかったです！

第一組の結果が早々と貼り出され、残念ながら今年は決勝に残りませんでした。

その分、司会の先生方のアナウンスの仕方など競吟大会でしか学べないことをしっかり勉強しておこうと思いました。

やはり、池田先生の司会は際立つて素晴らしく、常に背筋を伸ばして凛とされていて、お声も鮮明に清々しく響き、ベテランのアナウンサーの方のように気品と貫禄があり、金屏風の背景が神々しく池田先生を引き立てているかのようでした。

出吟者だけでなく、司会者も常に客席から見られているのだから、その事を念頭に置いて、気を引き締めて務めなくてはならないのだと改めて感じました。

帰りは、残念会で池田先生に食事をご馳走になりました。また、お疲れにも関わらず、家まで送って頂きました。

いつも温かいお心遣いに頭が下がります。今回は、決勝に残れず、池田先生、北岡先生、長野先生にこれだけお力添え頂いておきながら結果が出せない事が本当に申し訳なく、ふがない限りですが、鍛練あるのみだと思いますので、また来年へ向けて頑張ります。ありがとうございます！

**「日本文明の特異性」**

KOKO水曜 山本貴書

「日本の特徴を一言で述べよ」と言う設問がなされた時、どの様に答えるか大変難しいですね。社会学的に捉えるか、政治制度的にか、はたまた文明・文化論からアプローチするかによって答えは様々で、その全てが論理的妥当性を持つていてでしょう。

歴史軸に立つて文明論的に考察すると、日本のユニークさが浮き彫りになります。

それは「一地域一民族一国家一文明」という事です。もう少し要約すると、一国家一文明という世界史上例がない全く孤立した(いや独立かな?)友を持たない文明だという事です。

一時期、文化論・文明論が華やかだった頃がありました。文明論の草分け的存在は「西洋の没落」を書いたシュペンゲラーですし、トインビー(あまにも有名な「歴史の研究」)や、バグビーらが有名ですが、彼等はそれぞれ日本文明を評して月光文明だとか、周辺文明だと分析して独自性を認めず、文明の単位として扱っていないのには、ヨ

ロップ人からは日本をこの様にしか見ていないのかと、本を読んでガックリした記憶があります。しかし、最近の違いは違っています。

ギリシア・ローマの正統の後継者であると自認するヨーロッパ文明(彼等が勝手に言っているだけで、イスラムを通して古代文明を知り、古典に戻るというルネサンスが始まり、ヨーロッパの夜明けが始まるのです)の真似、シナ文明の付けたし、添え物程度の認識から、がらっと変わって、古代文明の様な大きな地域を包摂した普遍性のあるものではないが、どこにも分類できないし、サイズも小さいし、又、他地域への伝播性もない孤立した文明単位であるとして捉えるのが主流となっています。大納得でいい事です。

少し話題を変えますが、近代化の理論というのがあります。欧米の学者達は、世界で近代化に成功したのは、西ヨーロッパと日本だけだという厳然たる事実を前にして、何かそこに共通するもの、法則性があるのか、あるいは全くの偶然なのかということを考えています。そしてある結論を導き出しました。

それは、歴史のある時期、即ち中世において、封建制・封建国家の時代があったことだと分析・解明したのです。私は、駐日大使を務めた事もある日本・東洋研究者ライシャワー博士の著書で知りました。

日本では封建制は清算すべき悪の代名詞の様と考えられていましたが、封建時代・封建制は、西ヨーロッパと日本にしか存在しなかった制度で、これこそが近代の扉を開いたという事なのです。ここで反論が出ると思います。

シナこそ封建国家の本来本元、元祖じゃないか。

それを忘れてもらっては困る、その分析はおかしいと！しかし違っています。

シナは古代より郡県制をとった中央集権国家なのです。

歴史の遠い遠い過去には(周の時代)封建時代らしきものがありました。

しかし、そもそもシナは中原で王朝の興亡・交替を繰り返す王朝の歴史で、近代国家へ脱皮する必要十分条件を備えていなかったと言えます。

「全国吟詠コンクール決勝大会四位を戴いて」

かぐや 池田澄香



去る九月十六日、笹川記念会館にて全国吟詠コンクール決勝大会が行われ、二年ぶりに近畿代表として出場しました。

今年は何か変化のある時期だと前から周り発しており、自分でも変化の過程を感じる練習日々を送って居ました。

今までより少し意気込んで挑みましたが、ギリギ

リ四位というなんとも情けない結果となりました。三位に入るとテレビに映るらしく、それにも入れずメダルももらえず。

唯、前回の結果よりかは一つ階段を登ったのでまだ良しとしましょう。

さて、来年が青年の部として最後の挑戦になる年なので、今から自分に合ったバッチリな吟題を選んで調整して行きたいと思っています。

いつも応援してくださる会員の皆様、吟友の方々、祖母と師匠に感謝して今年頂いた恩を来年返せたらと思います。

ありがとうございます。

「楽しい交歓吟詠」 KOKO水曜 山本貴眞

九月十六日(月・祝)に十三のホテル・プラザオーサカで開催された三会派(鷺伸吟詠会・折屋昌会・攝友会)合同の第3回交歓吟詠大会に参加させて頂きました。

寿美伶教室の木村さんが抛無い事情で出席できなかった為、ご厚意で代理出席させて頂きました。有り難う御座居りました。

コンクールではありませので、和気あいあいと本場に素晴らしい交歓会でした。

幹事となる会派は持ち回りでいい、二年に一回の開催予定との事でした。ずっと続けられるといいと思います。

各会派の会歌は、それぞれ会の特色があらわれており、いずれも素晴らしいと思いました。

その中でも哲書会は、古都奈良を想起させる優れた詩文だと改めて感じました。

三会派の会長の挨拶で、池田会長先生は、シックな色合いの着物と調和のとれた帯という装いで、二番目に挨拶されました。

笑いを誘う導入部がありました。少し緊張気味でいつもとはちよつと違う印象を受けました。残念ながら参加されなかつた支部の方々の為に、以下にお話しの概略を述べます。(言葉はその通りではありません)自らが会を指揮するとなると(軍でいえば方面軍司令官という事です)、苦労が多いと分かつた、我が哲菫会も御多分に漏れず、会員が大幅減になつており危機感を持つている、ある種の施策をうつた事により新規会員獲得に成功している、他会派に対する慰労の言葉、それと最後に気力の大切さを述べられました。

交歓吟詠のあとは懇親会で、哲菫会としての余興は素晴らしいと思ひました。



最後の万歳三唱は期待通りでした。大坪先生が、万歳三唱の正しい仕方を指導して下さい、発声の音頭をとられる八木名誉会長に引き継がれ、会場は大変な盛り上がりでした。

話し変わって、プログラムをじっくり見ていると、哲菫会の参加者は、キャリアのある方ばかりだと今更ながら気づき、本来なら格違いなので顔出しは出来ないなと思ひました。

しかし、名前や顔は見知った人ばかりなので、気を遣う事はありませんでした。比較的早く名前と顔が一致したのは先生の御蔭と思つています。

ならやま支部のビッグイベントでの顔合わせや先生の指示による各イベントのプログラムの作成の為に、名前とにらめっこして分かつていったのだと思ひます。楽しい時間でした。

「高の原イオンモール こすもすホール最後の公開無料講座」 池田眞梨

六月から始めたこの講座。四回目の講師は、中島眞豊講師と植田飭菫講師。吟詠歌謡「竹」和歌「敷島の」お世話になりました。

来月からは会場を西部公民館に移して、詩吟を、和歌を、俳句、新体詩を初めてやる方を対象に講座を開催します。

新しい方々をお誘ひして戴き、会場へお運びください。



日本楽府で読む日本史

第十六関 【主殿寮(のつもりよう)】

主殿寮前の松火明らかなれども。  
率分堂外に春草生ず。

満朝の文章は珠玉を畳ぬるも。

輸着す老吏の語の太だ精なるに。

日見いて餐を傳ふは日没の天子。

聞かず、諫を求めて胥吏に至るを。

君見ずや侘夜燭涙山の如く

漏刻を緩うするを。

主殿寮。夜は墨の如し。

大意

主殿寮の前には松明があかあかと燃え、率分堂の外には春草が生いでている。朝廷中の人々のつづる詩文は珠玉を連ねたよう。つづれ衣の老官吏は誠に見事な話しぶり。午後まで政務に励んで「夕食のお時間です」と告げられたのは、かの日没する処の天子だが、諫言を求め小役人の言にまで耳を傾けたとは聞かぬ。

見給え君、緩やかに更ける夜の燭台に燭涙が山

のように

たまったまま、漏刻はゆつくりと時を刻み、

主殿寮は墨の如き真の闇なのを。

(引用文献『渡部昇一』日本史の真髓 頼山陽の『日本楽府』を読む) (プラスα)

大意を読んでも何のことかよく分かりませんので、

渡部先生の訳と解説を載せます。

(天曆の治で有名な村上天皇が紫宸殿にお出ましになった時、年老いた下級役人に対して、醍醐天皇の御代と比べてどうかと質問された。恐れ多くてなかなか答えなかつたが、ついに彼は次のように答えた。それが最初の二行です。

「この頃は天下泰平で、その点は議論の余地がありません。ただ主殿寮から沢山の松明を出すようになりました。また率分堂には草が生えております」

これでも分かりません、解説です。

主殿寮で松明が沢山出るといのは、宮中で夜中まで仕事や管絃の遊びがあるので、松明の消費量が多かつたという事。

率分堂は年貢を分納しておく倉庫のことで、その前が草ぼうぼうということは、年貢が集まらなくなつたということ。即ち支出が多いのに収入が少ないということ。

次の二行 村上天皇は『日観集』を作らせるなどまわりには珠玉の如き文章を書く廷臣が宮廷に満ちており、奏上文は立派であるが、老官吏の觀察の精密さには及ばなかつた。

次の二行 明君の誉れ高い隋の文帝は、日が傾

いても政務をしているので、衛士が晚餐を運んだ

ほどだつたと言われる。政は「朝」というので、

午前中にするものだつたのに、夕食を政務を執る場所にも運ばせるほど、夜まで一生懸命仕事をしていたという文帝と言えども、村上天皇のように下級官吏の諫言を聞くという事までしなかつた。

最後、君見ずやから墨の如しまで

老吏の言う通り、宮廷の夜更かしが続き、その為、蠟燭も多く使い、流れた蠟が山のようになり、時間はますます無駄遣いされた。

その為、松明は使い果たされ、主殿寮は墨の如く暗くなつた。

(漏刻は水時計のこと。それを「緩うする」というのは、急がないで時間を無駄使いすること。

村上天皇の政治は仁慈を主とし、文運も隆盛であつたが、一方では放漫で遊蕩な政治でもあつたと言へる。

頼山陽は平安朝のことをいいながら、当時の十一代將軍徳川家斉の政治を諷して江戸時代の危機感が天曆時代に投影されていたのではないかと渡部先生は解釈しています。

今回は難しかったです。しかし、当時の武士たちはこれを読んで理解していたんですね。今とは古典教養のレベルが違いますね。

寄稿

六十六回 山本菅邨先生

幕府に委ねた「治天の君」の選定により

天皇家はふたつの皇統に分裂

後嵯峨上皇が崩御した時、治天の君の候補には、

後深草上皇と龜山天皇がいた。

しかし、後嵯峨上皇は幕府への遠慮から自ら後継者を決めず、裁定を幕府に委ねた。

幕府は二人の母 大宮院の証言をもとに、龜山を治天の君に認定した。

これに後深草は納得せず、出家の意志を示し、揺さぶりをかけた。

幕府は後深草の子 伏見天皇を即位させる妥協案を出したが、かえって対立は激化。

以後、後深草系統・龜山系統は激しい皇位争奪戦を繰り返す。

後深草の系統は、京都北郊の持明院を御所とした為、「持明院統」 龜山の系統は後宇多上皇が嵯峨の大覚寺に住んだことから「大覚寺統」と呼ばれ、

それぞれ平安末期に成立した長講堂領と八条院領という膨大な荘園群(天皇家や貴族などの私領を

経済基盤とした。

幕府は両統が交互に天皇を出す「両統迭立」を提案したが、持明院統の北朝、大覚寺統の南朝が争う南北朝時代まで確執は続いた。

天皇全盛時代への回帰を目指す

「建武の親政」はなぜ失敗に?

隠岐から帰つた後醍醐天皇は、鎌倉幕府滅亡後、年号にちなみ「建武の新政」(1334年)を樹立した。

特徴は、天皇制の全盛期と言われる醍醐・村上天皇の治世(延喜・天曆の治)を理想として「公家一統」(公家中心の政治)を目指した点にある。摂政・

関白を廃止し、官職の世襲を改めて天皇自ら人事権を掌握。形骸化していた太政官の長官に大臣級の

上流貴族をあて、天皇の直接指揮下に置いた。建武の新政は因習を打破し天皇権力の絶対化を図る意欲的なものであつたが、性急な改革に人々は

号 240 号 便り 支部 ならやま

反発。所領の保証は天皇の綸旨(意向)によると定めた為、朝廷に訴訟が殺到し政務は停滞した。北条氏が滅んだ後、倒幕の勲功が第一とされていた足利尊氏は新政権の公家本位に不満をもち、各地で武士の反乱が続発、武士たちの期待は源氏の棟梁である足利尊氏に集まり、南北朝の分裂という激動の時代を迎える。

なぜ皇室はふたつに分立したのか

### 足利尊氏の挙兵で動乱が勃発

後醍醐天皇と後の室町幕府初代将軍 足利尊氏の確執は建武政権から始まった。後醍醐天皇は尊氏を警戒し重要政務から除外した為、人々は「新政に尊氏なし」と噂したという。

両者の確執が深まる中、1335年7月、北条氏の残党が東国で蜂起し、鎌倉を占領すると、尊氏は独断で東海道を下り鎮圧(中先代の乱)、後醍醐天皇の帰京命令を拒み、朝廷に反旗を翻す。

京都近郊の戦いで尊氏は敗れるも(北畠顕家・楠木正成・新田義貞軍により、九州へ逃亡)、九州で体制を立て直し、湊川で楠木正成を破り(湊川の戦い)入京。持明院統の第二代光明天皇を擁立し、政権の施政方針を示した「建武式目」(足利尊氏が制定した室町幕府の基本方針)を定めて、室町幕府を樹立する。後醍醐天皇はあきらめず、吉野に逃れて南朝を立ち上げ、尊氏討伐を呼び掛ける。しかし、北朝を擁する幕府との戦力差は大きく、新田義貞・北畠顕家ら有力武将が戦死すると、南朝は急速に弱体化していった。

### 四條畷の合戦 正平二年(1348)一月五日

正平二年(1347)二十二歳の若武者楠木正行は、父正成の遺志を継いで南朝方の為に挙兵し、八月

には紀伊の隅田一族を攻め、九月には河内の八尾城を陥れ、細川顕氏の三千の軍を藤井寺に破って緒戦を飾った。

尊氏は、正行の勢力の侮り難いを知り、高師直・師泰兄弟を総大将として、諸国の兵八万余りを男山八幡に集結させたのである。十二月も押し詰まった二十五日のことである。この報に接した正行は、一族百四十三人を率いて吉野の皇居に参上、後村上天皇に拝謁して、覚悟のほどを披歴して後、後醍醐陵に参拝、如意輪堂で誓を切って奉納、その板壁に歌を刻み、全員の名を列ねたのである。

「かえらじとかねて思えば梓弓なき数にいる名をぞとどむる」

こうして正行は僅か三千騎の手勢を連れて四條畷に向かったのである。正平三年正月二日、寒風凛烈たる朝、北朝軍は四條畷に布陣、北上する正行軍の側面を衝く為、師直は二万を率いて和泉堺方面に向かう。北朝軍は、全軍を五つに分け、飯盛山・外山・四條畷・生駒山・星田にそれぞれ布陣した。

松の飾りがそろそろ風雪に破れだした正月五日の未明、両軍の尖兵は、じりじりと一寸刻みに進みつつあった。楠木は無勢、次第に兵は血の流れの中に倒されていった。北朝方細川頼春等七千余騎の中に、楠木三百騎、「師直を討つまでは死ぬな!」それを合言葉に、群がる敵を斬り伏せ、斬り伏せ進んだ。

こうして三十余度の戦闘の結果は明らかとなり、今は正行の周囲には三十余騎が残るのみ。「正時、今はこれ迄。敵の手にこの命与えるよりは」と声をかけ、兄弟は刺し違えてその場に倒れた。時に正行二十三歳。

正行の墓は、四條畷駅の西方三百メートルの所にあり、楠塚と呼ばれている。飯盛山麓には四條畷神社があり、正行、正時らの霊が祀っている。



### 『ブレアデス』

呉春様

清少納言も

「星は すばる。彥星。夕筒。

よばひ星、少しをかし。

尾だになからしかば、まいて。」

秋の深まりとともに

四〇〇光年のかなたより

東の夜空に昇る

牡牛座の「総ぼる(すばる)」

中国では「昂(ぼう)」と

不思議な魅力

ひっそりと光る脇役

「ここにいろよ」と…すばるから

一等星のような輝きはないのに

心惹かれる

それは平安時代からかわらぬ魅力



今月の生花 菅沼様

(材料) ゴット・ワレモコウ・リンドウ・ハラン・小菊・ススキ



今月の曲&絵 syoutarou様&humiyo様

祇園小唄

<http://syoutarou.com/gionkouta.htm>



長田 幹彦 作詞  
佐々 紅華 作曲

1) 月はおぼろに 東山  
霞む夜毎の かがり火に  
夢もいざよう 紅ざくら  
しのぶ思いを 振袖に  
祇園恋しや だらりの帯よ

2) 夏は河原の 夕涼み  
白い襟あし ぼんぼりに  
霞む涙の 口紅も  
燃えて身を 焼く 大文字  
祇園恋しや だらりの帯よ

3) 鴨の河原の 水やせて  
咽ぶ瀬音に 鐘の声  
枯れた柳に 秋風が  
泣くよ今宵も 夜もすがら  
祇園恋しや だらりの帯よ

4) 雪はしとしと まる窓に  
つもる逢瀬の さしむかい  
灯影つめたく 小夜ふけて  
もやい枕に 川千鳥  
祇園恋しや だらりの帯よ

昭和四年十一月、牧野プロダクションでは金森万象のメガホンで祇園の一方茶屋を舞台に「絵日傘」を制作、

この時、金森監督が「東京行進曲」の大ヒットからヒントを得て「絵日傘」にも「東京行進曲」のように主題歌を入れようと言いついて出来たもの。五年一月にビクターから発売されたレコードは表・裏とも同じ曲を吹き込み、表面は管弦楽伴奏

でお座敷ダンス向けのフォックス・トロット、裏面は和楽器伴奏による日本舞踏用に作られ、二つの利用面をねらった型破りの企画で大ヒットした。

日本抒情歌全集1 参照

編集後記

九月にある提案をしました。

会員増強問題で、四月以降の新入会が途切れ、このままではいけないと・・・

六月から実施している、哲昌会公益推進事業の一環で、公開無料講座の成果も出ました。

その人たちも含めて他にも七人入会、凄いです。ならやまも、頑張りましょう！

一人一人がその気になって、勧誘を続けてください。いね。

みんなで盛り上げて戴きたいです。

「詩吟喫茶ならやまへようこそ」

まだまだリハーサルはドタバタしていますが、もう時間ありません。

自分の責任分はしっかりとお願いしますよ 黎☆

(公益社団法人) 関西吟詩文化協会

公認哲昌会 ならやま支部

発行責任者 責任講師 池田昌黎

FAX&TEL

0742-33-3496